授業改善推進プラン

【 3年 】

令和6年度 小平市立小平第四小学校

	学習状況の実態及び課題	具体的な改善策(いつまでに、どの程度)	追加・修正
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字は学習の積み重ねによって定着している児童と、なかなか定着しない児童とで差が見られる。特に書き取りに課題がある。 既習の漢字を正しく使ったり文章のつながりを考えたりすることに課題があるが、自分の思いや想像したことを積極的に書いたり、話したりできる児童が多い。一方で苦手意識が強く、大人が聞き取るなどの支援が必要な児童もいる。 言葉に注目して文章を読み取る力が付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間内で新出漢字を学習した後、一定期間を空けて小テストに取り組みさせる。間違えた漢字は繰り返し練習させ、年度末までに小テストの平均点を80点以上にさせる。 説明文では「はじめ・中・終わり」の文章構成を常に意識させる。日記の課題を出すなどして、文章構成を意識して書く経験を積ませる。 ◎全員が授業に参加し、個々に合った方法で考えたり伝えたりすることができるように、授業UDの手法を取り入れていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図記号や方位記号等の十分な定着には習熟が必要である。 資料を正しく読み取ったり、読み取ったことから考えを広げたりすることにまだ慣れていない児童が多い。 地域における社会的事象への関心をもち、町探検などの探求的な活動に意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習問題を明確に提示し、問題に対する予想と調べて気づいたことや分かったことを全体で共有することで考えを広げられるようにする。 ・はじめに前時の授業の振り返りや習熟が必要な内容(方位や地図記号など)の復習を繰り返し行い、知識の定着を図る。 ・具体的に身近な場面から導入を行い、児童の関心を高める。 ・傾向や特徴が捉えやすくなりやすい資料を用意し、複数の具体的資料から必要な情報を抜き出すことを通して、社会的な思考や判断の素地を身に付けられるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 九九やわり算はほぼ定着している。 たし算とひき算、棒グラフと表が課題である。 問題文を正確に読み取り、絵や図を活用して立式に繋げる力に課題がある。 意欲的な児童が多い一方で、学習規律を乱す児童や、学習に向かうこと自体が困難な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎問題文→絵や図の活用→立式の流れが定着するように指導する。 ・たし算とひき算や、グラフと表の意味理解の問題に繰り返し取り組み、知識技能の定着を図る。 ・見本となるノートの学級掲示、線分図・テープ図・アレイ図等に触れる機会を増やす、絵や図を活用している児童をTVを使って全体の場で価値づけるなどして、児童が自分に合った絵や図の活用が行えるようにしていく。 ・楽しめる学習課題の設定、板書やノートの取り方を学年で統一して整える、学習の見通しを持たせる等で、児童が集中して取り組める学習環境を作る。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 動植物の飼育栽培や実験に積極的に取り組む児童が多い。 問題を見出し、様々な疑問をもちながら学習に取り組んでいるが、考えを表現することが難しい児童もいる。 用語など、基礎や基本の定着が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎共通の視点をもって学習に取り組むことで、既習内容をもとに予想を立てたり考えたりしやすくする。 ・定期的に学習内容を遡って振り返る時間を設け、基礎や基本の定着を図る。 ・観察や実験などの体験を通して、児童がお互いに学び合えるように話し合い活動に取り組ませる。 ・3年生の観察や実験では得られにくい事象について、動画コンテンツやインターネットを活用して学習に取り組ませる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 新しく始まったリコーダーの学習に対して意欲的に取り組んでいる。 リコーダーの運指とタンギングを工夫しながら楽しく練習している。 歌詞の内容や旋律の流れ等からどのように歌ったり演奏したりすればよいか考えることができる。 体を動かす活動では、意欲的に活動できる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎リコーダーの基礎的な技能の定着を図るとともに、歌詞や曲想からどのように表現するとよいか、友達と対話をしながら考えることができるようにする。 ・リコーダーの指導では、正しい姿勢や運指の基礎を身に付ける時間を多く取り、基礎や基本を定着させる。 ・ペアやグループ活動を通して、自分の意見を基に互いに意見を伝え合える環境をつくる。 ・体を動かす活動を通して、友達と気持ちよくコミュニケーションをとれる時間をつくり、心が解放できる時間を多く設ける。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、造形的な特徴が分かり、自分なりに工夫して表すことができる。 豊かな発想や構想ができ、すすんで表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。 友達の作品から、見方や感じ方を広げ、発想を発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎より豊かな発想ができ、自分を生かす活動ができるよう、その都度、サポートする。 ・新しい材料や用具に既習事項を活かせるような題材を設定する。 ・授業の中で、鑑賞する時間を設定していく。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 様々な運動経験が不足し、基本的な動きがスムーズに行えない児童がいる。 課題に合わせて、動き方を工夫する力を伸ばす必要がある。 運動をすることが好きな児童が多く、意欲的に学習に取り組んでいる。 個ではなくチームとして、協力し合う学習に取り組めるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習カードを活用し、めあてを意識させて活動に取り組ませる。振り返りを行うことで、達成度を確認させたり、新たな課題を考えさせたりする。 ・自分や友達の動きを振り返り、新たな課題を考える時間を設け、解決するための方法や動き方の工夫を考えられるようにする。 ・児童の学習意欲が高まるように、個の実態に応じた運動量の確保、場の設定を工夫する。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。 課題設定や課題追究といった、学習のプロセスに慣れていない児童がいる。 調べたことや、自分の思いや願いを表現する方法に慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎課題意識をもって学習に取り組み、体験を通して考えを広げることができるようにする。 ・課題を見付ける、予想する、解決のための見直しをもつ、調べる、まとめるといった一連の学習のプロセスを学ばせる。 ・様々な表現方法を体験し、自分なりの方法で思いや考えを表現できるようにする。 ・身近な題材設定、地域の人材を活用した体験的な学習によってより自分事としてとらえ、取り組めるようにする。 	
特活	<ul style="list-style-type: none"> 当番活動については積極的に取り組んでいる。 係活動を自分たちで工夫して取り組んでいる。 自分の意見を意欲的に言う児童が増えてきているが、友達の意見を聞き入れて合意形成に至る過程に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎よりよい生活を築くために、話し合いや意見交換などの活動を大切にする。 ・それぞれの係や当番での工夫を取り上げ称賛される機会を設けたり定期的に振り返りを行ったりして、更に意欲的に取り組めるよう支援する。 ・学級会の流れを明確にし、毎回同じ流れで話し合いを進めさせる。 	

道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを積極的に取ろうとし、元氣よく挨拶ができる児童が多い。 ・道徳的な価値について、自分の考えをもつことや表現することが苦手な児童がいる。 ・社会的で基本的なルールやマナーが守れない児童も見られる。 	<p>◎B主として人との関わりに関することを重点に指導する。教材と身の回りの出来事に関連させて考えられるように、デジタル教材を活用して導入を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身と相手の考え方や捉え方の違いがあることに気付かせられるよう、話し合い活動を通して多面的、多角的に物事を捉えさせる。 ・友達の考えに触れ、自分の考えと比べるなどして自分の考えをもち、考えたことをノートに記録している。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツや歌、映像、アクティビティを通して外国語に興味をもつ児童が多い。 ・外国語を使ってコミュニケーションをとることに消極的な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中でアクティビティを行い、英語表現に慣れ親しませる。 ・児童が楽しみやすいトピック(身近な人物や物)を英語で表現して発話に慣れ親しませる。 	